

A- PARTNERS

足立区NPO情報紙
つくる。つながる。ひろがる。

No.36
2021年12月15日発行



地域を
おもしろく
する

特集 区内NPOの協働・協創の動き 【団体コラボ】綾瀬サロンほっとミックス×Code for Adachi

聞きたいあなただけのストーリー
モアプレジャー
センターピックアップ
あだちデザインLABO

頼って！おいでよ！子育ておまかせ処
妖怪ピーク
キッズサポート
コラム
スタッフのつぶやき

編集・発行 2021年12月15日 足立区NPO活動支援センター
〒123-0851 足立区梅田7-13-1 (梅田図書館1F) TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄: 足立区協働・協創推進課 区民協働推進係 TEL:03-3880-5020



子どもの居場所 子育て支援 安心して暮らせる環境や仕組みづくり



頼って！おいでよ！子育ておまかせ処



妖怪ピーク

主な活動場所：不特定
お問い合わせ：yokai-peek@gmail.com

子ども&フオーエバー・ヤングの皆様へ。想像の世界に一緒にダイブしましょう！

活動内容

既成に捉われないプログラム、ワークショップが特徴です。「子どもたちが想像力を発揮できるキッカケを」と思うクリエイター仲間が連携しながら「オモシロいことやろう！」を合言葉に活動しています。

メッセージ

自分たちも子どもだったことを忘れず「オモシロい」に真面目に向き合っています!! 様々な身体感覚を呼び覚まして一緒に楽しみましょう!



さまざまなアプローチで身体感覚を呼び覚ますワークショップ。

キッズサポート

主な活動場所：足立区、梅島、島根、梅田周辺
お問い合わせ：磯部 080-6516-2977

地域全体で子どもたちを育てる。子どもたちが誇りに思う地域に。

活動内容

活動母体となった「梅一小子ども会」が行ってきた活動を中心に広げています。
●資源回収/毎月第三土曜日 ●子育て勉強会・相談会/奇数月・不定期 ●ベルmont公園紙芝居/偶数月・第二日曜日午前中 ●キッズ夏祭り・ベルmont公園北側にて/7月半ば

メッセージ

来年開催の夏祭りはどれだけ盛り上がるだろうと、今から楽しみです! その他の活動も状況を見つつ進めていますので、多くの方にご参加いただき、地域の子もたちと大人たちの繋がりになればいいなあ、と思っています。



公園で紙芝居。気軽に来てくださいね。

「くわしく聞きたい!」
「自分も可かわ始めたい!」
と思ったら...

地域にどんな活動があるのかな?
私にも何かできるのかな?
もっといろいろ知りたい!!
と思った方は、
[足立区NPO活動支援センター](#)に
アクセスしましょう。

あだち協働パートナーサイト Twitter Facebook



〒123-0851
東京都足立区梅田七丁目13番1号
TEL:03-3840-2331
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp

スタッフのつぶやき

相談員の生越（おごせ）です。
4月から相談員として、市民活動運営に関わる各種相談や助成金申請の事前相談などを担当しております。普段は埼玉県熊谷市の市民活動支援センターの職員をしていて、運営するNPOの役員の1人として、空き家を活用したコミュニティスペースの運営や地域情報発信など、まちづくり活動に取り組んでいます。

非営利組織の運営はなかなか難しいこともあり、私たちも悩みながら日々活動しています。また、昨年からはコロナ禍により、従来どおりの活動ができない団体も多いかと思えます。膝を突き合わせて話し合う、一緒に食事をするなど、市民活動が大切にしてきた交流の場やコミュニケーションがとれないなか、オンラインの活用をはじめ、様々な工夫や試行が各地域で実践されています。

即座に動けることや意思決定の小回りが効くことは、市民活動のよいところの一つです。上手くいかなかったことも含め、様々な活動にも活かせるような良事例に触れる機会が多いため、そのような情報も皆さまにお伝えすることができればと思います。

(センター相談員 生越 康治)

特集

区内NPOの

協働・協創の重き

垣根を超えて、多様な主体がゆるやかにつながる「協働・協創」の動きが足立区内で広がっています。令和3年度のA-PARTNERSは、足立区で動き出している「協働・協創」の取り組みや、課題を取り上げていきます。

つなぐ、つながる、つなげる！ 人と人、人と情報をつなぎ、更なる広がり。

団体コラボ

顔が見える地域コミュニティ 綾瀬サロンほっとミックス × ITで地域を盛り上げる Code for Adachi

今回は、全く違うジャンルの活動をしている2つの団体が協力し合うモデルケースを取材させていただきました。

地域の人同士をもっと身近に！

「人が好き」から始まった活動

一つ目の団体は、2017年秋より10名ほどで活動をしている、「綾瀬サロンほっとミックス」。ホッとする、温かい、ということからこの名前にしたのでそうです。「人が好きだから地域の人を巻き込んで関わり合いたい」と、代表の大竹さん。当団体は設立して5年目になりますが、地域活動には実に30年近く携わっているそうです。

月に1回の催し物はその時々で内容は異なりますが、最近あった楽しかった事などを話してもらう時間を必ず設けているそうです。それは、起こった困り事を言語化するためのトレーニングも兼ねているとのこと。最近では人と会う機会が減少し、寂しさや孤独を抱えている人がふえていると感じていたそうです。今は直接会わなくてもスマホを使ってSNSなどで繋がることもできますが、利用者の中心層はシニア層です。スマホの使い方を覚えてもらおうと、ITに強い「Code for Adachi」の代表・村上さんと竹越さんに声をかけて今年度のコラボ企画が実現しました。

ITで足立区をより良く、より楽しく！

Code for Adachiは、2018年9月に活動をはじめた団体です。「Code for」は自律的に活動が行われているネットワーク型の組織で、世界各地で活動組織が存在しています。足立区では、「ITで足立区を盛り上げる」という理念の下、メンバー7名ほどで活動を行っており、オープンデータやITを活用した課題解決にも意欲的です。

イベントは、子どものプログラミング体験や、小学生を対象にした「あだちっこタイピングコンテスト」など、小学生や現役世代へのアプローチを軸としています。しかし以前、川の氾濫があった際に若い世代はスマホで地域の情報を素早くキャッチしていたのに比べ、シニア層はラジオで広域情報を聞くのみで、地域情報から取り残されていたのが記憶にあり、メンバー・竹越さんはシニア層へのスマ

新規登録団体紹介

誰でも気軽にスポーツを モアプレジャー

モアプレジャーは、「誰でも気軽にスポーツができる環境を作る」ことをめざすNPO法人です。スポーツをしたい人を募り、足立区、北区、台東区のスポーツ公園や体育館などで活動しています。

最初は、友人が集まって草野球などを楽しんでいたようですが、日程が合わない、人数が揃わないなど、大人数でやるようなスポーツはなかなか難しいと感じていたそうです。そこで「きっと他にも同じように思っている人がいる」と考え、スポーツができる環境づくりをする団体として活動をスタート。「スポーツをしたい人集まれ！」と多くの人に呼びかけるため、SNSや広告を使って周知した

聞きたい、あなただけのストーリー

ところ、現在では約400名近い登録者数となり、ほぼ毎日活動しています。

活動の幅を広げていくため、また、活動が自発的で非営利な内容であることなどに鑑み、2020年12月にNPO法人化しました。

参加者の年齢層は10代〜80代と幅広く、毎回初めて参加する人も多くいるため、自己紹介などで場を和ませ、参加者が安心して楽しめるような工夫もしているとのこと。

野球、テニス、ソフトボールがメインですが、冬はスノーボードなども企画。「今後は、障がい者スポーツや高齢者向けのスポーツなどにも取り組んでいきたい」と代表の石澤さんと副代表の秋庭さん。



H.P <https://morepleasure.jimdofree.com/>

モアプレジャー登録者にNPOのボランティア募集情報を発信するなど、区内のNPO団体との連携も模索しているようです。



活用の必要性を感じていたといいます。

コラボで生かされるそれぞれの強み

ITに弱いシニア層への情報提供で連携

綾瀬サロンほっとミックスでは、ITに弱いシニア層にスマホの使用を促進するため、Code for Adachiとともに、「シニア世代のスマートフォン活用講座」の開催を実現。これから開催する2月のイベントを含めて計4回、延べ60名の参加を予定しています。

「ほっとミックスは昭和感覚のコミュニティ。ITに強い団体との連携は、鉄腕アトムに出会った様なワクワク感があります。」と大竹さん。

今回は「シニア世代に必要な情報を持つ団体」と「必要な支援を実施するスキルを持つ団体」が協力することで、それぞれの強みが生かされた好例ではないでしょうか。

今の時代に最も重要な「つながり」。必要なものを必要ところに届けるための2つの団体の「つながり」は、他団体も追従しうる理想的な活動の見本と感じました。

取材：三井むつみ（足立区NPO活動支援センター区民ライター）

注目の活動

センターピクマップ

アートで多様な感性に触れる あだちデザインLABO

「混ぜたらどんな色になるんだろう」と子どもたちの目がワクワクきらきらするアートワークショップを開催している、あだちデザインLABOさん。

「ひびきあう」「自分で発見」「受け入れる」の3つを軸として、子どもたちの感性、肯定感を引き出し、上も下も優も劣もない関係の中で、自分らしさを発揮できるようなアート教室・ワークショップを開催しています。

「講師のクリエイターを通して大事な自分の価値観を育んでもらえたら嬉しいです」と代表の大原さん。

気になった方はまずは体験で参加してみてください。



H.P <http://labo.white-crows.jp/>